

我がふるさと・わが母校

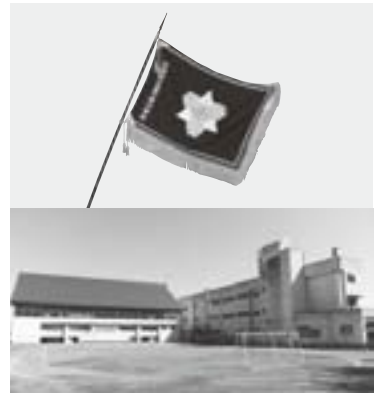
第78回



津南町立 芦ヶ崎小学校

昭和三年十一月 校歌制定
作詞者 相馬御風氏の自筆(右)

当地区で親交があった城原の太田進さん宅に来訪し、この詩を書きあげる。



芦ヶ崎小学校校歌 校歌

作詞 相馬 御風
作曲 弘田龍太郎

- 一 山巖かに 地は高く
風に塵なき 芦ヶ崎
学びの園を 照らす日の
恵み豊けき 聖代の幸
- 二 清き心は 竜ヶ窪
池の鏡と 競うべく
剛健の気は 高山の
由々しき姿に 学ぶべし
- 三 訪う人もなき 谷間にも
時来れば咲く 花はあり
自ら励む 力こそ
こよなく強き かなれ
- 四 いざや同胞 もろとに
学びの光 身に浴びて
正しき道を ひとすじに
弛まず倦まず 進まばや

芦ヶ崎小学校の教育目標

やさしく つよく たくましく



津南町立芦ヶ崎小学校 校長

内山 恵子

芦ヶ崎小学校は、明治七年の創立で、今年度創立百三十八年の伝統ある学校です。明治五年の学制交付の四ヶ月後に仮開学の許可を受けて、学費の他は多額の村費による学校運営を行っていました。教育を他の何よりも優先させた学校関係者や地域の人々の並々ならぬ思いに深い感銘を受けました。

相馬御風作詞の校歌に歌い込まれているように恵まれた自然環境の中に位置する本校は、昭和五十八年の校舎、プール改修、特別教室の改築工事と厳しい財政の中でも教育尊重の精神のもと、将来の津南を担う子どもたちの成長を願って、施設設備の充実を図ってくださいました。

二十三年度、児童数五十四名、学級数四学級(複式二学級)職員数十三名です。「地域を誇りに思い、一人一人が輝く子どもの育成」を中核に教育活動を進めています。この地域には、深い雪に閉ざされる厳しい冬に立ち向かい、春の訪れを待ち、農の大地にしっかりと根をおろしてたくましく生きる風土が脈々と受け継がれています。「よくなりたい」「やさしい子に育てたい」と子ども・保護者・地域住民の願いを学校がしっかりと受け止め、実現に向けてそれぞれの役割を明確にして取り組んでいます。

新学習指導要領の全面実施を受け、児童に生きる力はぐくむために、芦ヶ崎小学校でしかできない特色ある教育活動のカリキュラムづくりを職員一丸となって生成しています。

津南町の紹介

津南町は、新潟県南端、信濃川沿いの日本一の河岸段丘に位置しています。この段丘は、氷河時代に隆起と浸食で造り上げられた大自然の芸術です。また、中津川の溪谷美を誇る秋山郷、高山植物の豊富な苗場山・小松原湿原、そして高原リゾートならではの楽しみを満喫できるマウンテンパーク津南、ニューグリーンピア津南、山伏山森林公園や全国名水百選の龍ヶ窪の名水、掛け流しの温泉の宝庫でもあります。

津南は歴史も古く、旧石器時代から弥生時代にかけての遺跡が点在しており、特に沖ノ原遺跡や神山遺跡など、全国的にも貴重な遺跡も多く出土されています。歴史民俗資料館には、秋山郷を中心にこの地域全体から集められた重要有形民俗文化財一六八六点、新潟県指定が千六十四点展示されています。

芦ヶ崎小学校区には沖ノ原遺跡の他宮之原遺跡の発掘が行われ、三年生から六



遺跡の発掘

年生が今年発掘に参加しました。自然に囲まれた津南は、一年中見所満載です。

冬 昨年の一月は毎日雪が降りしきり、積雪が4m以上になりました。毎日、除雪作業に追われていましたが、「春になれば、のうなるわね。」と、笑って応える地域住民。力強さを感じます。子どもたちは、一面の白銀の世界をスキーで滑りまわります。体育の授業にクロスカントリースキーとアルペンスキーの学習が位置付けられています。マウンテンパークとニューグリーンピア津南の二つのスキー場で練習します。将来のスキーオリンピック選手を輩出することも夢ではありません。

春 新緑のブナ林は、疲れた私たちの心と身体を癒してくれます。
夏 学区の沖ノ原大地の広大な畑の真ん中に、さんと照る太陽を浴びて輝く五十万本のひまわりの姿はまさに圧巻。毎年七月下旬からお盆にかけて、全国からたくさんの観光客が訪れます。

秋 中津川上流に点在する越後七集落と信濃五集落を『秋山郷』と呼び、平家の落人の里といわれています。秋は辺り一面が鮮やかな紅葉に彩られる広大なキャンパスになります。

芦ヶ崎小学校の歩み

◆創立前

天明・寛政の頃、赤沢区の実相庵に堂守説円なる者、村の子弟を集めて教授す。(芦ヶ崎村史)

◆明治七年九月

谷内校創立 新潟県第六中学区第五番小学私立外丸校に属す

◆明治七年十一月 赤沢校創立

明治八年 五月 芦ヶ崎校創立

十二月 小下里校創立



新校舎竣工式後の全校写真 (昭和4年9月 518名)

◆昭和四年 九月

新築校舎開校式挙行

◆昭和二十二年三月

芦ヶ崎小学校と改称

◆昭和三十三年一月

小下里分校、田中分校が統合し 三里小学校として独立

◆昭和四十九年四月

上郷小学校中子分校閉校、芦ヶ崎小学校に統合

◆昭和五十八年十月

校舎改築竣工式・記念祝賀会挙行



旧校舎と並ぶ新校舎 (昭和58年10月)

◆平成三年十一月三日

「龍神太鼓」発表会にて初主演「誕生の章」

◆平成五年十月

創立百二十周年記念挙行式典

「龍神太鼓」

◆平成十八年四月

新曲「雄飛の章」発表
児童の減少に伴い、初めて二・三年が複式学級となり、五学級編制

◆平成二十三年三月十二日未明
長野県北部地震で体育館の天井
損壊のため使用不可能、修復工
事七月二十一日工事完了

特色ある教育

★地域の特色を生かした生活
科・総合的な学習を中核に
据えたカリキュラムの生成

学校の周りは広大な田んぼが広
がり、その上の上段は見渡す限り、
雪切れと同時に畑作を営む専業農
家が多い。そこで、地域の自然・
人・文化に主体的にかかわる活動
を通して問題解決能力を育成する
と共に、ふるさとのよさに気付き
誇りに思う心を育てていきたいと
思います。



ヤギにえさを与える

○一・二年生活科 動物飼育を通して、
相手を思いやる気持ちと責任感・協
力する心を育てます。昨年の五月か
ら、山羊を育て、冬も飼い続け、生
命の誕生との出会いが待っています。



龍神豆腐をつくっているおばあさんが先生

○どろんこ活動は、この地域ならではの
体験活動です。農協が、毎年子ども
たちのために多額の資金を出し人
材を派遣してくださいます。先生は、
地域のおばあちゃんや子どもたちの
お父ちゃんです。大豆を育てて豆腐
づくりやクッキー作りをします。ま
た、全校で田植え・稲刈りをして自
然の恵みを収穫祭で味わいます。



全校田植え



創立20周年を迎えた龍神太鼓演奏



ジャガイモ植え

○五・六年は福祉について、勉強してい
ます。津南町は老人世帯が多く、介
護施設が足りないということを知り
ました。自分たちにできることは何
かを考えて、慰問に何回か訪れまし
た。



一日アルペンスキー教室：指導者はお父さん



5年総合学習「ほくたちにできること」老人ホーム慰問

○冬の体育はクロカンスキー授業です。
学校にはスキーとストックが完備さ
れています。
学校の周りの田んぼがコースとなり、
スノーモービルでコース付けを教頭
先生がします。先生方はスキーが初
めてでも、子どもと一緒に頑張って
練習します。
二月には五つの小学校がアルペン
スキーとクロカンスキーの種目で競
合います。



町民スキー大会

きずなを深める伝承活動

赤澤神楽実行委員長
滝 沢 和 彦 昭三十二年卒



赤澤神楽（平成22年9月18日）

平成二十二年九月、多くの方々からご支援をいただき、三百年の伝統を誇る赤沢神楽を赤沢境内の特設舞台において盛大に上演することができました。

この奉納神楽は十年に一度の上演でしたが、小学校在学中に一度は経験させることにより、興味や関心を深め継承する心を養うという目的で、六年目で実施することになりました。上演には一年余りの準備を要し、特設舞台は集落民総出で作り上げました。若者が長老から指導を仰ぐ姿など技術の伝承が確実に行われていることを実

感じました。子どもたちの練習には神楽保存会の皆さんが指導に当たり、夜遅くまで笛や太鼓のお囃子が鳴り響き集落に活気を感じました。

奉納当日は、約六百人も観客が見守る中、子どもたちの真剣な演技や保存会みなさんの熱演で時間の経つのも忘れるほどでした。立派に演じきった子どもたちの姿には、成し遂げた自信と誇りを感じました。そして、この神楽を通して子どもたちと家族や地域との深いきずなができたことを喜び、今後も継承活動に積極的にかかわろうと思います。

農村で育つこと

同窓会長

涌井 九八郎 昭三十六年卒

芦小には子やぎが仲間に入り、一・二年生の生活科の中で毎日面倒を見ている大変すばらしい取組みがあり、全国ヤギネットワーク代表今井明夫さんはじめ地域の関谷おじさんに感謝している。

今日日本中、核家族化・高齢者世帯・独居世帯が増加し、ペット産業は大繁盛である。

しかし、ペットはあくまでも愛玩動物であり、人間が生命を維持

するために飼ってきた動物とは異なる。人間は、牛・馬・羊のように草を食べて必要なエネルギー、栄養素をすべて摂ることはできない。従って、彼らを通じて肉や乳を戴き、日常生活や生産に必要な皮や毛を利用し、農耕にも数十年前まで利用してきた。ヤギを飼うためにえさを用意し、臭い糞や尿のしみこんだ敷藁を片付け、子が生まれるのを楽しみにしている。

親が子を育てると同じ体験をこの子らは、学校という場で学んでいる。



ヤギの飼い方について地域の方から話を聞く

大好き芦ヶ崎小学校

六年 涌井 ダニエル

芦ヶ崎小学校では、伝統の龍神

太鼓やクリーン大作戦（龍ヶ窪周辺の清掃活動）など他の学校にはない行事があります。

入学式の時、初めて演奏を聴いて（すごい。カッコいいなあ）と思いました。六年になって私は、センターでリーダーとしてみんなをまとめなくてはなりません。大変だけど、町の祭りや老人ホームなどで演奏すると、みんな涙を流して聞いてくれます。練習は大変だけど、やりがいのある体験です。

芦ヶ崎小学校は、津南小に比べると五分の一の小さな学校です。でも、その分みんなで一つのことを協力してやりとげると絆が深まっていく気がします。私はこの学校に学べて本当によかったと思います。大好き芦小！

○ご協力いただいた方々

- ・赤沢神楽実行委員長 滝沢 和彦さん
- ・芦ヶ崎小学校同窓会長 涌井 九八郎さん
- ・津南町立芦ヶ崎小学校校長 内山 恵子さん
- ・津南町観光協会

（取材・広報委員 本間 壯平）

地区県人会・郷人会だより

蒲原会十回目のおふるさと訪問(稲刈りツアー)

◎池田 孝一郎 会長

☎〇四五―九八一―二九七五番

九月十一日(日)朝七時の池

袋。一人の遅刻者もなく、

ほぼ時報とともにスタート

した大型観光バスは「こん

なにスムーズでいいの

な」と思ってしまふ順調さ。

四十五人の参加者に乗せ

て、途中の休憩も余裕たっ

ぷり、午前十一時半前に目的地(新

潟市西蒲区西川地区)の健康セン

ターに着きました。

首都圏えちご蒲原会が毎年行っ

ている郷土訪問旅行は十回目(稲刈り

ツアーとしては九回目)ですが、こ

れほど楽な走行は初めてとってい

いでしよう。

一行を迎

えてくれた

待望の昼食

はもちろん

地元の方々

の手づく

り。今年の

おにぎり



おにぎりが待ち遠しい(健康センター)



「さあ、やるぞー」と氣勢をあげる(西川地区)

新種の「こしいぶき」で、あとは定

番の一汁二菜(なす漬けときゅうり

漬け)ですが、これが毎回大好評。

このたびも飛び切りのおいしさとパ

ワーを頂きました。

「さあ、本番」と張り切った稲刈

りは、J.Aの方々の配慮でしょうか、

丁度頃合いのスペースにたわわな実

りが残されていて、「それーつ」と

総がかり。少し物足りない表情の人



交流懇親会(岩室温泉)

もいたくら

いで、無事

終了となり

ました。

あとは、

交流懇親会

の待つ岩室

温泉へ行く

ばかりでしたが、陽はまだ高しとい

うことで、急遽、かつての大庄屋「笹

川邸」の見学へ。リピーターにも有

難い丁寧な解説付きの見学で新知識

を吸収、お隣の「曾我量深・平澤

興記念館」では、両碩学の驥尾の一

端に触れました。

ゆったりと温泉に浸かった後の交

歓は、地元の行政、県議、市議の皆

さんにJ.Aの方々も加わって総勢

七十七名。明るく賑やかな宴になり

ましたが、何よりホッとしたのは、

やっこの機会に「蒲原会十周年記

念誌」を出席者全員にお渡しできた

ことでした。県人会百周年記念誌の

編集を終えた後、バタバタしながら

の作業でしたから、「間に合って良

かった」が実感で、表紙や文中の絵

を描いてもらった画家の藤井克之さ

んをこの場で紹介することもできま

した。

そして翌十二日(月)。弥彦神社の

参拝に先立って、石瀬の宝山酒造を

見学。当主夫人の巧みなトークにつ

い一杯と参拝前の御神酒が入り、気

分上々で神前にぬかずき、ケールブル

カーで弥彦山頂まで登りました。

東京スカイツリーと同じ六三四

メートルから、越後平野のどこまで

も平らな広がりとは日本海の波静かな

ブルーを同時に展望した皆さんから

は感嘆の声も上がりました。

そして驚くべきことに、この後の

帰路も大順調。都内に入るまで渋滞

知らずだったことは、奇跡的なこと

だったなあ...と思っています。

県人会関係の皆様(松之山会会長

として参加の高橋副会長や女性委員

の方々など)もご参加ありがとうございました。

(池田 孝一郎 記)

横須賀新潟県人会バーベキュー会開催

◎ 長谷川 邦彦 会長

八月二十八日(日)、定例行事の一つ三浦市長浜海岸の家々、はまかぜ&そよ風で晴天とすがすがしい風のもと、昨年より十名程少ない四十余名の参加者で開催されました。

十一時、長谷川会長の挨拶で始まり、おむすび、焼肉等を会場で作り、家庭からつげもの、さざえ等、ビールと酒で机上は一杯、思う存分飲食満足しました。満腹をみはからい恒例のお楽しみのビンゴゲーム。新潟コシヒカリ五キロを当てるのに真剣。三時定時終了しました。

(広報 石黒 慧 記)



準備に一生懸命の会員さん



挨拶する長谷川会長



会場となった三浦長浜海岸

東京新潟西越会・カラオケ親睦会開催

◎ 山田 信治 会長

九月四日(日)午前十一時三十分から、(有)吉池にて平成二十三年度東京新潟西越会カラオケ親睦会を開催した。ご来賓として、東京新潟県人会副会長・廣川高志様他七名の方々にご参加戴いた。親睦会は高橋秀夫副会長の司会で進行した。

会長より「広瀬副会長初め会員の皆様多数ご参加を頂き誠に有難う御座いました。食事とお酒を召し上がりながら会員相互の親睦を図り、カラオケを唄って楽しい一時をお過ごし

下さい。柳家さん吉師匠をお迎えしておりますのでお楽しみ下さい」と挨拶があった。高橋副会長の音頭で乾杯し親睦会は始まった。

宴が始まり、初めに柳家さん吉師匠に小話を披露して頂き、笑いと共に盛大な拍手を戴いた。師匠のお話は、途切れることなく続き会場を沸かせ、笑いの途切れることは無かった。師匠から進んで「一〇〇周年記念誌」販売にご協力を頂き、各席を回られご尽力頂いた。お陰様で七冊程御買い上げ頂いた。

カラオケのスタートとなり、唄い手が殺到。皆さんお上手で、さすがにお歌好きの方々だと感心もした。

料理に舌鼓をうち、ビールやお酒でお顔もほんのり赤みを帯び、思い思いの懇談で賑やかだった。大変な盛り上がりの中、お約束のお時間が迫り、柳家さん吉師匠の音頭で中締めとなり三本締めで終了した。

午後二時三十分散会した。

(山田 信治 記)



当日参加された皆さん

第十七回「東京津川会」総会開催

◎加藤 喜七 会長

「ゆく河の流れ絶えずしもとの水に
あらずよどみに浮ぶうたかたはかつ
消え久しくとどまりたる例なし」

鴨長明の「方丈記」の一節である。
全国に大震災、大洪水、大飢饉が起
き人間の無常さをつづる文章である。
今年ほど災害が多い年は希である。



阿賀町神田町長(左)・東京津川会加藤会長(右)

九月四日(日)八重洲富士屋ホテルに
て午後一時より総勢一〇〇名のご参
加を頂き、総会・懇親会を催した。

八月号広報「あが」を拝見して、
七月末に襲った新潟・福島豪雨が、
昭和三十三年以上の甚大な被害を
「わが故郷」に与えたその凄ましい
状況を総会の中で映像として確認。
神田阿賀町長より詳細に亘り被害の
報告を受ける。

会として、受付には災害募金箱を
設置。大勢の方々の心温まる義援金
が寄せられた。わが古里を思いやる
心と強い「絆」の表われである。
十一月は都心近郊居住の阿賀町郷
人会の有志の方々が、バスを連ねて
古里を訪れる。

今から楽しみに…
町よ!!「元氣を出せ!!」そんなメツ
セーじが今日参加された一人一人か
ら感じられた。暗い出来事が続く中
で賑やかに地酒を酌み交しながら、
楽しい一時を語り合っていた。

(加藤 喜七 記)

葛南船橋新潟県人会総会・懇親会

◎村山 セツ 会長

葛南船橋新潟県人会では平成
二十三年九月十八日(日)船橋グランド
ホテルにおいて、定時総会と懇親会
を開催しました。

総会は宮内くに子副会長の司会、
村山信次議長によって平成二十二年
度事業報告・会計報告・役員改選と
進み、新会長に村山セツ前副会長を
満場一致で選出、また会則の一部改
定が承認されました。

第二部懇親会に先立ち村山セツ新
会長より南雲英雄前会長に花束の贈
呈が行われました。

ご来賓挨拶は東京新潟県人会(平
辰会長代理) 廣川高志副会長様にご



新会長より前会長南雲氏へ花束の贈呈

に読んで
いただき
ました。

大橋良
子船橋市
前市長夫
人の乾杯
の音頭で
賑やかな
懇談が始
まり児玉
信副会長
の司会で
アトラク
ション

へ。トップは郷土芸能の「バカメン
踊り」で山口玄吾公員と大嶋京・児
玉信副会長が助勢し幕が開きま
した。

舞踊・カラオケと酔いしれ、斉藤
誠青年部長の力強い万歳三唱で閉会
となり、全員の記念撮影をして来年
三〇周年での再会を誓いました。

(葛南船橋・事務局長 飯塚 記)



懇親会参加の皆さん

「東京えちご・雪椿の会」は、平成二十一年四月九日、有志が箱根湯本吉池旅館に集まり、設立総会が開かれ即日発足した。

これより以前、佐伯会長の東京鹿瀬会会長退任の慰労の会を、東京新潟県人会横野寅夫相談役、同川村副会長の肝いりで、阿賀町麒麟山温泉で開いたが、その帰路、参加者から「この際、親睦の会を作つたらどうか」と提案されたのが契機となつて

いる。会長が鹿瀬会会長として長年尽力され、他の郷人会、地区県人会が会の活性化に苦慮されている中、「郷土の紹介、会の発展、県人会との交流」をモットーにしている会長の下には常に明るい、元氣な、楽しい会員が集まる環境があつた。

会長は、心が広く豊かで、温かな人である。子供の頃から世話好きで、面倒見が良く、そして多くの人を動かすのが好きであつた。「父親が建設会社を経営していた。その親分肌氣質を受け継いだのかも知れない。」と師匠は言う（私は普段、会長を師匠と呼んでいる。）

任。この間、県立新潟図書館の運営

委員や村の社会教育委員等にも選ばれ、社会教育に貢献するといった活躍ぶりだ。更に村に柔道会を組織し郡や県の柔道会の役員にも就任、青少年の育成、社会教育の充実に尽力され、本業（この間、吊り橋鹿瀬橋の設計に従事）よりも忙しかったと聞いた。「雪椿の会」とはなかなか優雅な名

です。ね、と尋ねたら「うん、北陸や東北地方で雪椿を題名にした会報やPR誌を発行している団体は多いと思

うが、これを会の名前に使っているのは俺達くらいのもんだ。雪椿は新潟県の『県の木』として認定されているしね。会発足当初の通知に名無しでは変だから、思いつきで『仮称・雪椿の会』と銘打って、通知したところ皆さんから、会名はこれがいいと即刻承認され、頭に『東京えちご』を付けて確定したと言うわけ。」と



東京えちご・雪椿の会
会長 佐伯 益一さん

のこと。事務局長に星野憲三氏を指名し、横野・川村・春日の三氏を相談役に迎え、体制は磐石である。当初二〇名足らずで発足した会であるが、二年半を経て、現在六〇名を超えている。企業役員やそのOB、各役員、役所関係者、民間有志と会員の顔ぶれは多彩だ。

会の運営に苦勞されるようなことはないですか？と尋ねると「俺自身が一番楽しんでるし、みんなバカになって騒ぐから面白いのだよ。」と、さすが師匠！みんな師匠のペースに巻き込まれる

のか、いつも明るい元氣で楽しい会となる。年に一度は遠距離旅行会を行い、最近では三十名の会員が集まって、佐渡旅行会を実施した。盛會であつた事はぶうまでもない。また、会長はあの「善行はがき」の発案者でもある。電車内で席を譲るなど、道行く人の善い行いを見た時『ありがとう』の感謝の氣

持ちを形にしたいというのが趣旨である。そのとき「善行はがき」をさり気なくプレゼントしようというのである。

会長は常に世のため、人の為、会の為に何が出来るかと考え、提案し、そして実行している。そこに人は魅かれ、共感し集まるのだから。会長の信条は洞察力、決断力、実行力である。それが見事に実現されている事例と言える。

そして、会長は無類の酒好きである。飲み方は豪快だが、乱れた姿など見た事がない。そして「酒は無理に注ぐな、注がれた酒は残すな」が口癖である。宴席などで、盃に酒を残して立ち去ろうものなら、「コラー！」と大きな声が飛んでくる。

「あと三年あと三年」これも最近の口癖だ。「ナンですか？それ？」と聞くと「俺の寿命さ」とくる。「三年経つたらどうしますか？」「な〜に、又三年延ばせばいいんだよ、定期券のように。」恐れ入りました。師匠の称号は永遠です。

佐伯益一、大正十四年生まれ、八十七歳、ますます元氣で活躍をお祈り致します。（県人会理事・広報委員 田中 実）

市町村だより あれこれ

新潟県下の市町村広報その他から ⑩

佐渡西三川が文化的景観に

今月は佐渡の話題からスタートする。

先に、ジアス（GIAHS）「世界重要農業資産システム」に認定され、自然と人間が共生する農業システムや里山、棚田の美しい風景、伝統芸能の保存と継承が世界に認められた佐渡市にさらなる朗報がもたらされた。

文化審議会からの答申（五月）を



砂金採掘跡地に形成された笹川集落

受けた文部科学省が「佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観」を国の重要文化的景観として選定（九月末）したのである。

佐渡市南西部に位置する西三川地域およそ五二〇ヘクタールがそれぞれ、世界遺産を目指す佐渡金銀山遺跡の中心地域。その独特の地形は、砂金採掘という地域の人々の生活や土地利用の移り変わりをよくあらわしているものとして評価された。

この文化的景観の選定は、全国で二十九件となったが、新潟県では初めてで、今後は佐渡市が行うこの地域での建造物の修復や普及・啓発活動に対して国からの補助金が支給される。

トキ、五回目の放鳥

続いて、トキである。来春こそは待望のヒナ誕生を…の願いを込めた五回目の放鳥が九月二十七日、二十八日の両日行われ、予定してい



大けがから立ち直って飛び立ったトキ
(写真提供：新潟日報)

た全十八羽のトキが上空へ飛び立つて行った。

佐渡市トキ保護センター野生復帰ステーションの放鳥は、九月二十七日の早朝から開始され、午前五時五十四分に放鳥口が開けられた。

最初の一羽（二歳雄）がまず六時二十一分に順化ケージから飛び立つと、午前中に六羽、午後になって三羽（雄雌各五羽の計十羽）が次々と飛翔した。

この十羽という数は、順化ケージからの放鳥初日としては最多で、滑り出しは順調。その翌日（二十八日）も残る八羽（雄六羽、雌二羽）が飛び立って行き、これまでの放鳥では最短の二日間で全十八羽がスムーズに自然界へと羽ばたいて行った。

そしてこの中には、テンに襲われて瀕死の大けがをしながら生き残っ

た二歳の雄も含まれていたというところで、トキ保護センターの関係者はそれぞれに「たくましく生き抜いて欲しい」と、その強い生命力に期待をかけている。

放鳥されたこれらのトキは、来春の繁殖期に向けて餌が少ない冬を越さなければならぬが、果たして何羽が生き残って希望をつないでくれるか。これまで（一次から四次）の放鳥では、六十羽の放鳥で約三十羽の生存が確認されているが、今回のトキたちがこれまでと同じくらいの生存率を保って繁殖期を迎えてくれるかどうか、気がかりな日々がまた始まる。

北信越大会へ、三校が進出

春の選抜、甲子園への関門・第百二十五回北信越高校野球県大会は九月十七日に開幕。強豪校を次々と降して勢いに乗った北越高校が、実に三十年ぶり（六十一季ぶり）三度目の優勝を飾り、高校野球ファンをアツと言わせた。

一回戦の小出高校を接戦の5対4で制した北越高校は、続く準々決勝で優勝候補筆頭の日本文理高校と対



県大会で優勝した北越高校ナイン(写真提供：新潟日報)

田高校の間で争われ、新潟明訓高校が7対0で快勝。優勝の北越高校、準優勝の県央高校とともに北信越大会出場の切符を手中にした。

この号が出る時には、その北信越大会(十月十五日から長野県で開催)の結果も出ていることになるが、三校の首尾はいかなることになっていくだろうか。希望は、春を呼ぶ選抜(甲子園)につながって行く。

港湾連合会トップに篠田市長

篠田昭新潟市長が「日本港湾振興団体連合会」の会長に選出されることになった。

この連合会は、全国の官民から成る八十一の港湾振興団体で構成されている全国組織で、港湾の整備や利用促進を目指して国への要望活動や各港湾の連携を図って行くのを目的に一九六七年(昭和四十二年)に設立された。

そのトップに篠田新潟市長(新潟



篠田新潟市長

港振興協会(会長)が選出されたといい、

篠田市長への期待はもろろんだが、現在日本が置かれている状況とその中で占める新潟港の立ち位置を表しているを見ていいだろう。

つまり、中国などのアジアの物流が活発化している中で日本海側港湾の重要性が益々増大している現実があつて、そのことを国内外に知らしめることへの期待がかかっているわけだ。

今、日本の港では、横浜港や神戸港でさえも世界の貨物取扱量ランキングの上位から滑り落ちていく状況にあり、この現状を回復するための世界への発信力が問われている。と同時に、それを効果あらしめるための全国港湾同士の連携強化が喫緊の課題となつているわけで、その任は重い。

旧大和百貨店に新店舗

その篠田市長のお膝元、県都新潟市では、古町通りの旧大和百貨店ビルの一、二階に新店舗がオープンした。三連休の初日となつた九月二十三日(秋分の日)、歩道を広げ道路の改修も成つた古町通りでは、街の再出発を祝うダンスなどのイベントが



旧大和に出店した山下家具店の新店舗(写真提供：新潟日報)

賑やかに行われ、待ちかねた市民らが歩道に設けられたベンチで憩いながら見物する姿が見受けられた。

新店舗は、一階がキッチン雑貨の専門店となり、二、三階は大型家具を扱っているが、初日の入りは上々であつたようだ。地元の商店街振興組合では、この賑わいを持続させるためには個々の店舗の企業努力と情報戦略が大切と、商店ニュースやイベント情報を発信する「電子看板」を設けるなど、並々ならぬ決意で臨んでいる。

(広報 池田 孝一郎)